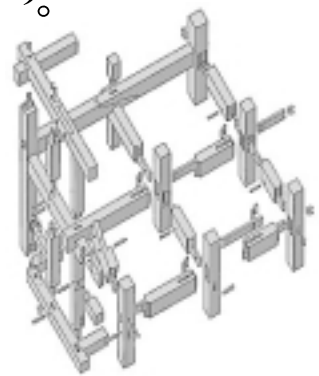


職人がつくる木の家

職人がつくる、日本の木の家。
人に健康、環境にやさしく、
いざという時に心強く、
末長く愛着をもつて住める家。
そんな家を求めるあなたと、
つくる私たちの縁結びのサイトです。



木の家づくり運動をサポートするWebサイト
<http://kino-ie.net>

毎月25日更新

「木の家ネット」が
Web年鑑2003に掲載中!

Web Design Annual
2003

2002年度のベストサイトを
選んで紹介する「Web年鑑2003」に
「木の家ネット」が掲載されます!
数万とも数十万ともいわれる
日本発サイトのうち
選ばれたのは710サイトです。

天然素材と自然素材のお店

エコショップ
素材自店

札幌市百合が原4丁目8-1
(百合が原公園向かい)
☎011-774-8599

ecology sozaijiten #22

自然素材で健康に!

木を長持ちさせる自然塗料の話

1 健康な住まいの塗料を考える

自然素材にこだわった家づくりをする、無垢の木がたくさん使われることになりま。当然、塗料を塗る面積が増えるわけですから、人体や環境に対してリスクの少ない塗料を選ぶ必要があります。

私たちの身の回りには、塗料は健康に大きな影響を与える有害化学物質を多く含んでいるものがほとんどです。石油から採れる樹脂と油脂を化学合成した化学系塗料ではなく、天然成分で構成されたより安全な塗料が求められています。

2 自然塗料となる植物油

● 荏胡麻油
● アマニ油

化学合成された塗料や接着剤に含まれるホルムアルデヒド、トルエン、キシレンをはじめとする化学物質は、シックハウスや化学物質過敏症をはじめとする様々な健康障害の原因となっています。

天然系の木材用塗料は、空気中の酸素と結合し、固まる性質の植物油(乾性油)を主原料としています。乾性油だけをそのまま使っても良いのですが、乾燥時間を早くし、表面保護の塗膜をつくるための乾燥剤や天然樹脂と、でき

るだけ人体や環境に対してリスクの少ない溶剤を配合したものが自然塗料です。この油性の塗料はオイルフィニッシュで、誰にでも簡単に仕上げる事ができます。まず、薄く均一に塗布し浸透させてから、20〜30分後に余分な油を拭き取り、乾燥させます。これを2〜3回繰り返します。滑らかな仕上げにするポイント、最後の仕上げの前に300番前後のサンドペーパーをかけてから、もう一度薄塗りし、フィニッシュすることです。これでパツパツ仕上がります。

シソ科の荏胡麻から採取した乾性油で、最近のヘルシー志向で食用としても栽培されています。乾燥は早いが、赤色に焼け色が出来ます。多少臭いに癖があるので注意しましょう。

● キリユ桐油
桐の木から採取する乾性油。やや濃厚な油で、乾燥はやや早い。耐水性が良く、他の乾性油に比べ焼け色が出にくい。以上のような特徴があり、外壁の木下見板に柿渋や墨汁を塗った上から塗布すると、耐水性が向上し、長持ちするそうです。

● アマニ油
亜麻の種から採取した、自然塗料に使われる最もポピュラーな乾性油。時間がたつと黄色に焼け色が出来ます。乾燥を早めるため、煮詰めて乾燥剤を加えたものがスタンド亜麻仁油。日本での栽培の発祥は北海道で、その昔、僕の田舎には亜麻畑が広がっていたそうです。札幌の麻生は亜麻発生の地からきているのです。

3 自然塗料を選ぶポイント

◆ 防腐剤に注意
外壁やウッドデッキを塗る場合などの外で使用される塗料には、防腐剤を添加している場合があります。このタイプの室内での使用は避けなければなりません。

◆ 用途で選ぶ
室内で使用される木材用塗料には、大きく分けて2つのタイプがあります。木の中に浸透して中から保護する浸透性塗料は主に針葉樹と相性が良く、床や腰板・天井板などに適します。木の表面に膜を張り、表面を保護する塗膜性塗料は、どちらかと言えば広葉樹との相性が良く、床や家具・建具などに適しています。木の材質や用途に応じた使い分けをします。

◆ 収納部には注意を
自然塗料は、扉の付いた収納などの密閉空間で使用すると、酸化が進み、カビの発生源になる場合があります。扉に通気口を付けるか、収納内部の使用は控えたほうが良いようです。

◆ 溶剤成分を確かめる
自然塗料に使われている溶剤成分は、オレンジやレモンの柑橘精油が、無臭の石油系溶剤イソパラフィンを使用し



ドイツ リボス社の自然塗料。
油性ウッドオイル(右)と水性ワックスステイン(左)

4 水性塗料は安全か

揮発性の有機溶剤を減らす目的で、水を溶剤とした水性塗料が開発されています。

水が溶剤ならば安全と思いがちですが、実際には界面活性剤、泡沫抑制剤、濃縮剤、保存剤などが添加されています。さらに、グリコール類やアミンといった有機溶剤が、補助剤として含まれているのです。

環境先進国ドイツの環境適合基準であるブルーエンジェルマークが付いている塗料であっても、溶剤成分は最高10%まで認められています。安全性を誤解して無神経に取り扱い、直接手で触れたり排水溝から捨てたりすることは避けなければなりません。空気汚染から水汚染へ、移行しただけになりますよネ。

自然塗料メーカーからは、安全な天然成分でつくられている水性塗料が出ていて、こちらはオススメです。

5 メンテナンスも考える

日々のメンテナンスを考えると、最初に選ぶ材質と塗料の選択がとても重要になってきます。

シックスクールではワックスが問題の1つになっていますが、ビニールの床や化学合成塗料を塗装した無垢のフローリング床のメンテナンスには、化学ワックスしか使えないことなるからで、汚れや旧塗膜をはがす剥離剤の影響とあわせて、解決できない問題となっています。

塗料と同じで、水性ワックスも安心できないのです。住宅に使われる合板系フローリングについても、同じことがいえます。最初に無垢の素材

を選び、適切な自然塗装をすることにより、メンテナンスにおける人体と環境に対するリスクを最小限に抑えることができるのです。



欧州赤松を特注加工して天然系塗料を塗った外観

PROFILE

西條正幸 Masayuki Saijo

エコロジーデザイナー。

1960年伊達市生まれ。

札幌を中心に商業施設のインテリアデザイナーとして活動。現在は人と環境にやさしい商住空間をテーマに、エコロジー建築による店舗住宅の新築、リフォームの設計・施工、エコロジー建材のコーディネートなどに従事している。

一級建築士事務所(有)西條インテリアデザイン設立。代表取締役。



自然素材で新築・リフォーム
エコロジー建築工房

一級建築士事務所
有限会社 西條インテリアデザイン

本社 札幌市北区百合が原4丁目8の1(百合が原公園向かい) TEL 011-774-8599
伊達支店 伊達市舟岡町50-28 TEL 0142-22-0138 <http://www.saijo-d.com>